

特定鳥獣(カワウ)の保護及び管理に係る研修会

研修資料

この研修資料は、下記の研修のために使用されたものです。

そのため、情報が古い場合があります。

また、Web での掲載のために一部修正や削除、構成の変更をしているものがあります。

令和4年度カワウの保護・管理に関する研修会

対 象： 都道府県及び市町村の鳥獣、水産等の関係行政のカワウ担当者

開 催 日： 2022年6月13日(月)、6月20日(月)

場 所： オンライン開催

講師と科目： 基礎編講義

環境省鳥獣保護管理室(鳥獣保護管理の法制度等)

水産庁栽培養殖課(カワウ被害対策の進め方と水産庁事業について)

加藤ななえ(カワウの生態とモニタリング調査)

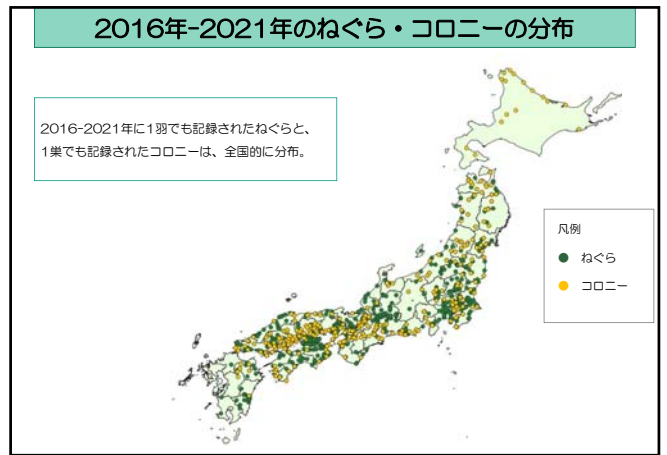
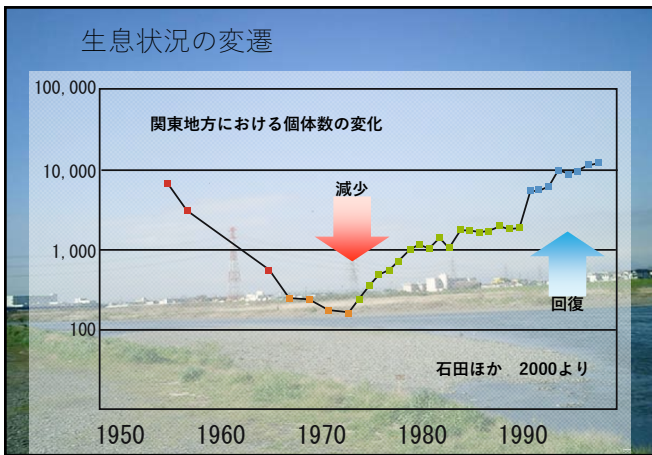
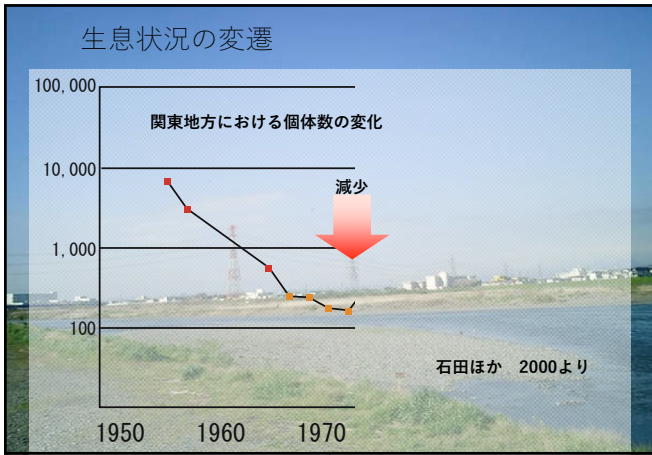
高木憲太郎(カワウの生息状況と季節移動)

応用編講義

坪井潤一(ねぐら・コロニーの分布管理と繁殖抑制)

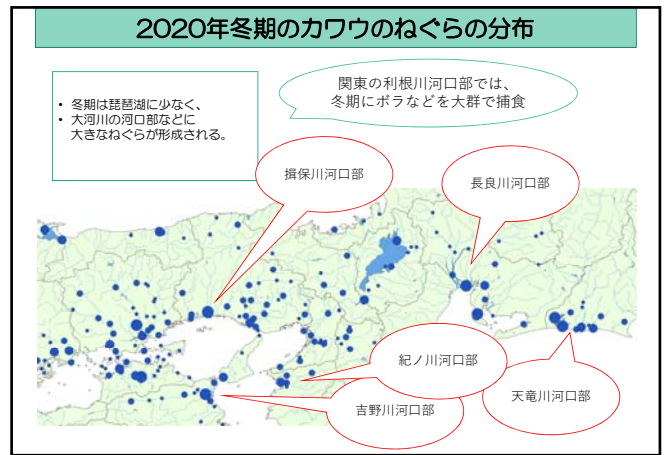
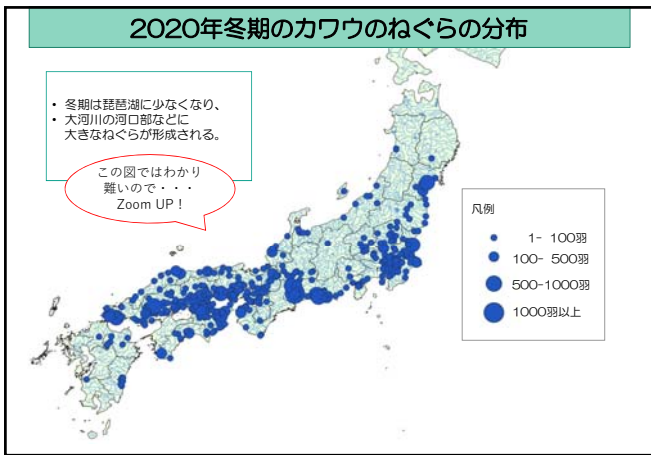
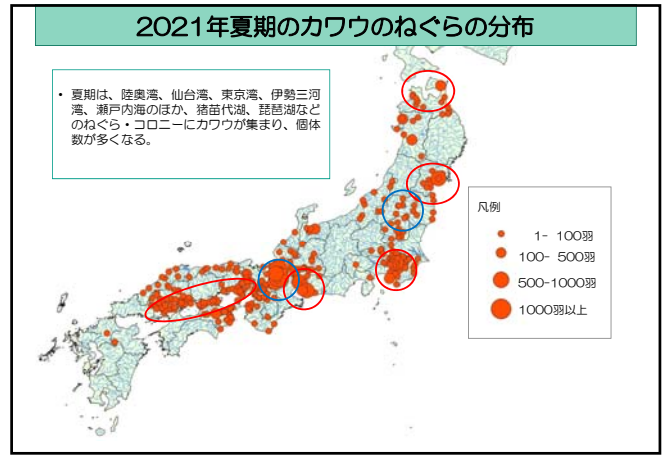
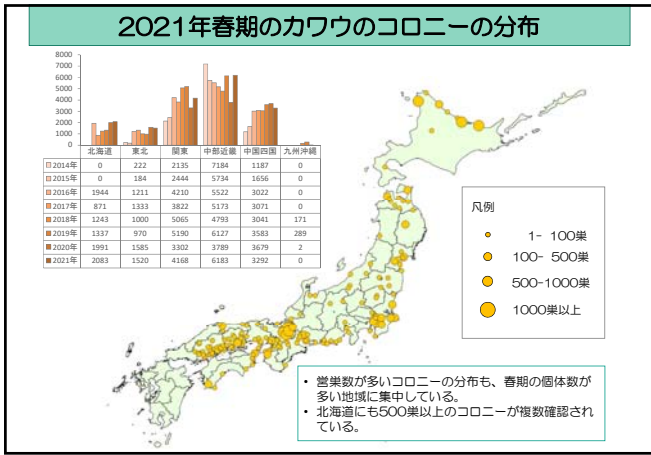
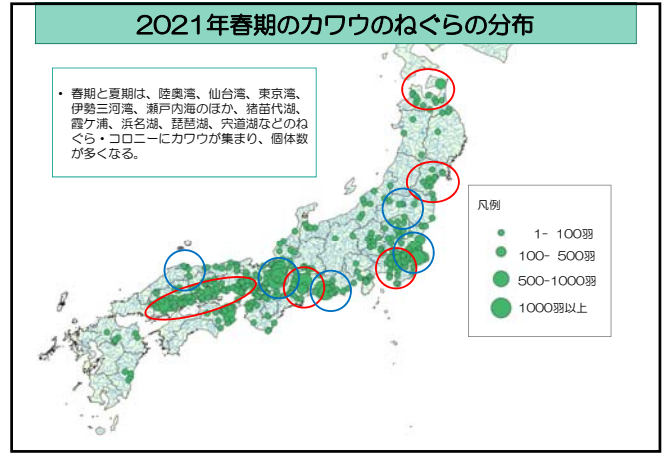
須藤明子(個体数調整をすべき状況 その判断と実際)

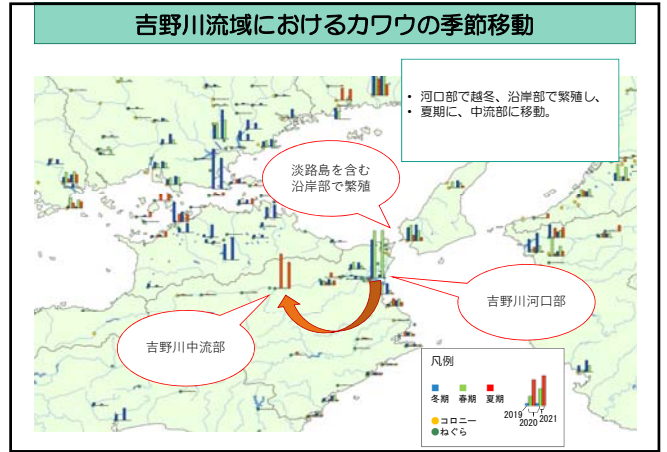
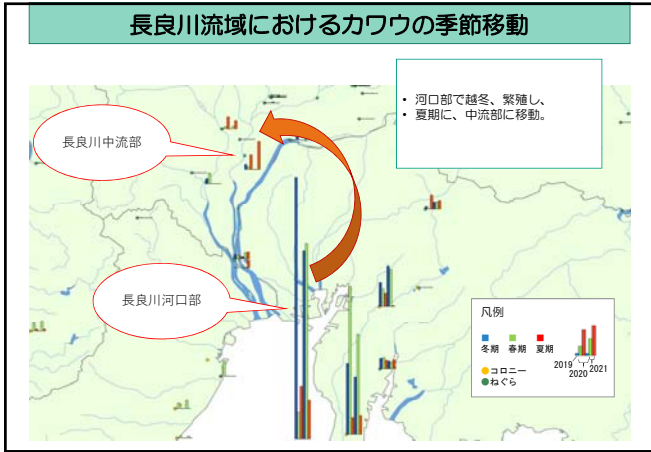
山本麻希(鵜的フェーズと管理計画の作成)



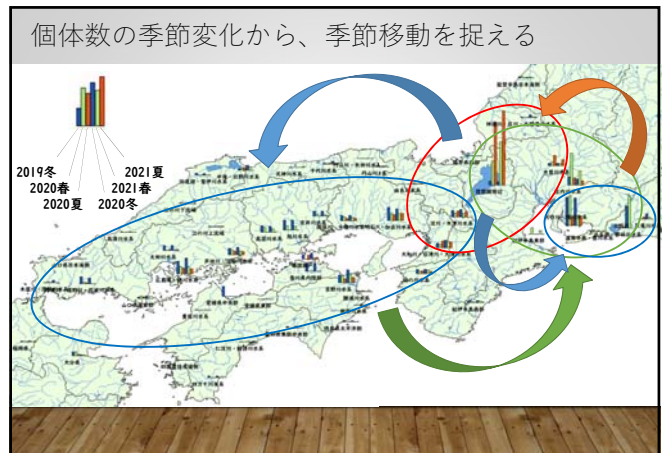
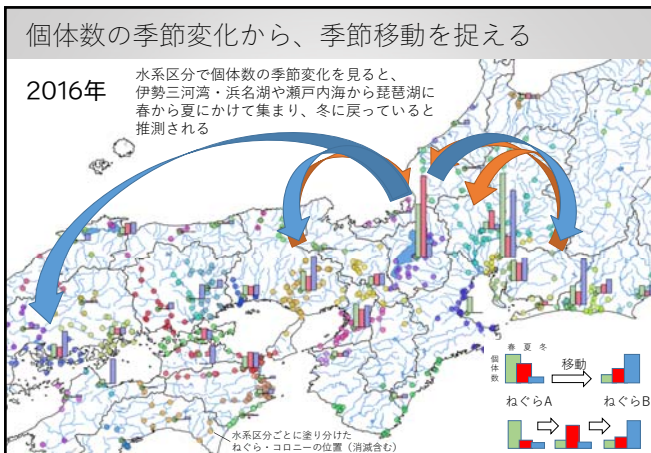
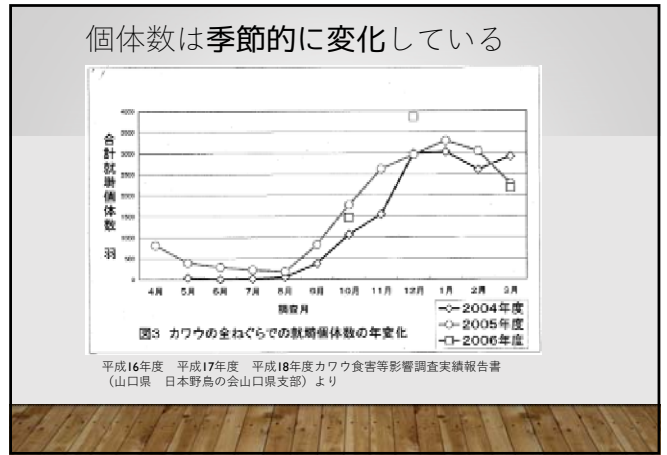


- 個体数減少 & 分布縮小→回復→分布拡大へ
- ★現在のカワウの分布（季節ごとの特徴）
- ★地域内でのカワウの季節移動
- 広域でのカワウの季節移動
- カワウの個体数の経年変化



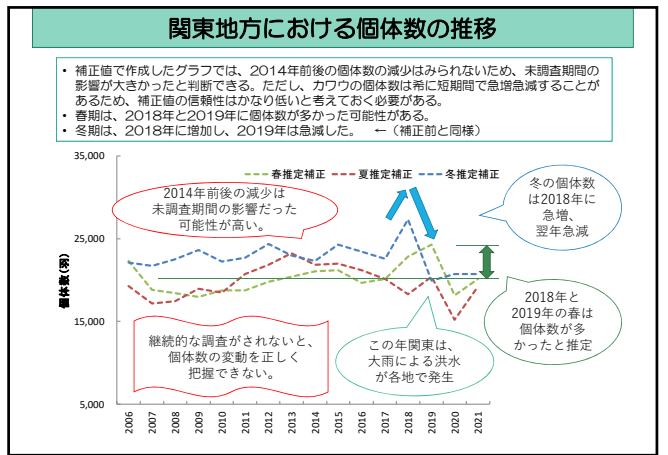
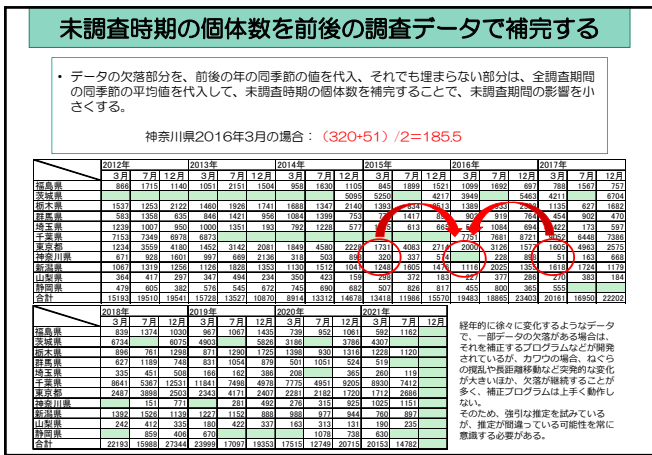
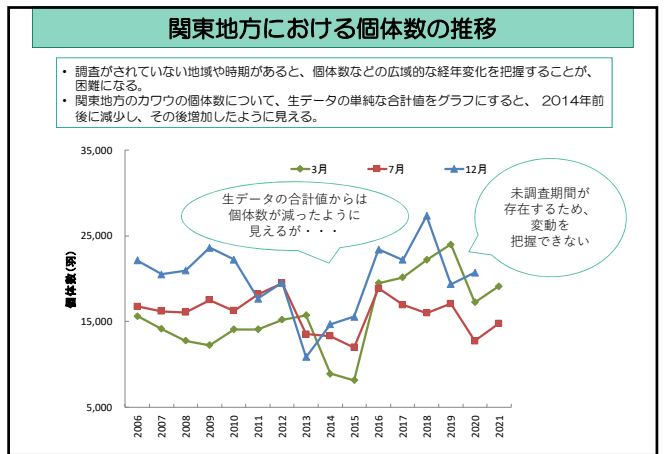
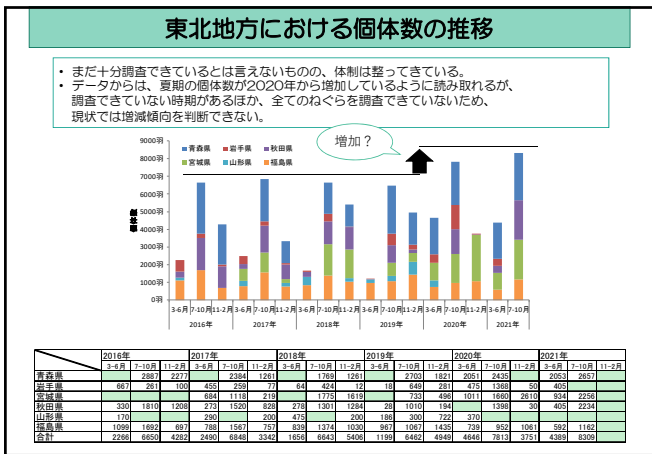


- 個体数減少 & 分布縮小 → 回復 → 分布拡大へ
- 現在のカワウの分布 (季節ごとの特徴)
- 地域内でのカワウの季節移動
- ★広域でのカワウの季節移動
- カワウの個体数の経年変化



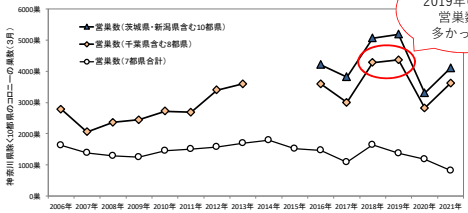


- 個体数減少 & 分布縮小 → 回復 → 分布拡大へ
- 現在のカワウの分布（季節ごとの特徴）
- 地域内でのカワウの季節移動
- 広域でのカワウの季節移動
- ★カワウの個体数の経年変化



関東地方における営業数（春期）の推移

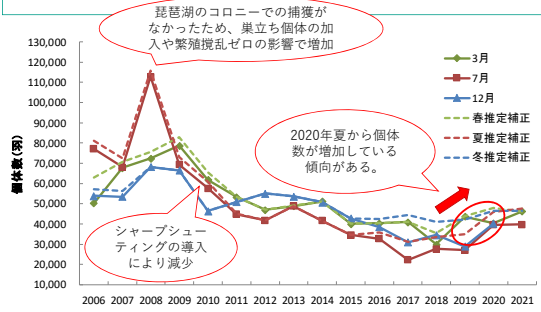
- 2018年と2019年の春は個体数の増加に伴い、営業数も多かった。



調査年度	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
関東圏(茨城県・新潟県含む)10都県	3000	2500	2800	2800	2800	2800	2800	2800	2800	2800	2800	2800	4200	4500	3500	3800
関東圏(千葉県含む)8都県	1500	1500	1500	1500	1500	1500	1500	1500	1500	1500	1500	1500	1500	1500	1500	1500
営業数(7都県合計)	1500	1000	1300	1300	1300	1300	1300	1300	1300	1300	1300	1300	2700	3000	2000	2300

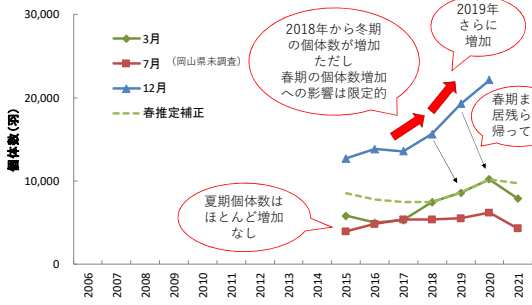
中部近畿地方における個体数の推移

- 関東と同様の方法で推定しても、集計値と推定値に大きな差がない。
- 推定値からは、2020年夏期に個体数が増加した傾向が読み取れる。



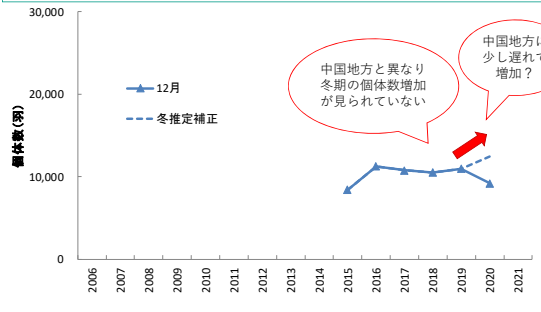
中国地方の個体数の推移

- 他の季節に比べ冬期の個体数が多く、中部近畿地方などに移出して繁殖している個体が多いと推測される。
- 冬期は、2018年から個体数が増加しはじめ、2019年に急増した。



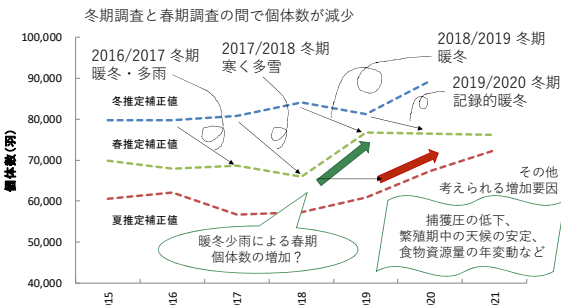
四国地方の個体数の推移

- 中国地方で見られている個体数の増加の傾向は見られない。
- 推定値からは、2020年冬期に個体数の増加の兆候が読み取れるので、中国地方より少し遅れてこれから個体数が増加する可能性がある。（隣接地域での個体数の増加が、1、2年遅れて出てくる事例が過去に中部近畿であり）



関東・中部近畿・中国地方の個体数の推移

- 冬期と春期の調査の間が最も寒い期間にあたり、カワウの個体数はこの期間に減少する。
- 推定値では、2018/2019と2019/2020の冬期の個体数の減少が少なかった。
- 過去、4年間の気候と比較すると、この2冬は暖冬で大雨もなかった。
- それに伴い、2019年春期の個体数が増加し、夏期の個体数も少し遅れて増加していると推定。



つづく